

# 平成 27 年度 SGH 事業報告

平成 27 年度 SGH 事業の概要	…	1
--------------------	---	---

## I 課題研究

1 「長野のグローバル戦略を探る」 (総合的な学習の時間)	…	2
2 「世界から見た長野のグローバル戦略」 (総合的な学習の時間)	…	15
3 グローバル経済	…	23
4 英語プロジェクト I	…	26
5 英語プロジェクト II	…	31

## II 海外研修・国際交流→IIへ

## III グローバルな学びへの参加→IIIへ

平成 27 年度 長野県長野高等学校 SGH 事業の概要

2学年		1学年					
	世界から見た長野のグローバル戦略(総合的な学習の時間)	英語プロジェクトⅡ	グローバル経済	長野のグローバル戦略を探る(総合的な学習の時間)	英語プロジェクトⅠ		
4月	・オリエンテーション ・SGH講演会 ・研究計画	・コミュニケーション ・トレーニング	・オリエンテーション ・大航海時代と植民	課題研究Ⅰ	・オリエンテーション ・英語プレゼンテーションⅠ(自己紹介)		
5月	・調査研究	・KANOプレゼンテーション	・絶対王政と重商主義		・ディベート基礎	・レシテーション	米国リーダー研修報告会
6月	・フィールドワーク	・英語サイトリサーチ	・産業革命と近代資本主義の確立		・フィールドワーク基礎		
7月	・フィールドワーク	・アカデミックプレゼンテーション	・社会主義思想とロシア革命 ・講演会		・フィールドワークⅠ	・英語プレゼンテーションⅡ(My Favorite)	
8月							
9月	・調査研究	・アカデミックプレゼンテーション	・戦後国際政治の動向	・フィールドワークⅠ発表会	・発表会My Favorite Presentation	IOC-OMN総会生徒派遣	
10月	・発表準備	・台湾交流準備	・世界の政治・経済体制	課題研究Ⅱ	・分野選択		
11月	・課題研究発表会(善光寺グローバル・プレサミット)	・台湾交流プレゼンテーション作成	・国家と個人のあり方 ・基本的人権の保障		・調査研究		
12月	・台湾研修旅行		・現代社会の諸課題		・フィールドワークⅡ		
1月			・講演会		・調査研究 ・発表準備		
2月	・論文作成	・社会問題プレゼンテーション	・現代社会の諸課題		・課題研究中間発表会		
3月			・講演会	研究課題Ⅲ	・論文作成	米国リーダー研修	

# I 課題研究

## 1 「長野のグローバル戦略を探る」（総合的な学習の時間）

(1) 単位及び授業時間 1単位 隔週で2コマ連続(55分×2)

(2) 対象 1 学年生徒

(3) 科目の目標

- ①探究活動に必要なスキルや多角的な視点を身につける。
- ②探究活動をとおして思考力・判断力・表現力・課題解決能力・発信力を身につける。
- ③地元長野を「グローバル」という視点で再度見たり考えたりすることにより新たな価値を発見するとともに、広く深い視野で行動する力を身につける。

(4) 授業内容

### ①世界に通用する力と学び 4月18日(土)【日新館土曜セミナーとして実施】

- ・目的：大学進学を目指して入学してきた1年生に、主体的な学習とは何か、グローバルな視点とは何かを理解させ、これから始まる高校での学習に意欲的に取り組む姿勢を涵養する。
- ・内容：A. グループワーク（高校での学びに対して感じている期待や不安、自分が将来やりたいこと・高校でやりたいこと、世界に通用するために身につける力についてグループ内で意見交換、マッピング作成）  
B. 東北大学大学院文化研究科教授 高橋章則氏による講演会（東北大学におけるSGUの取組について示し、主体的な学びとはどのようなものかを説明し、高校での主体的な学びが大学での学びに直結していると示していただいた。希望する保護者も多数参観した。）
- ・成果：グループワークでは、高校入学直後に持った学習に対する不安や期待を共有することができ、学習集団の形成という面で大きな成果が見られた。講演会では、SGHでの学びが大学での学びにつながっていることを認識でき、いい動機付けになった。
- ・生徒の感想より

☆世界に通用する人材に必要な自分の考えを持ち、主張する力を身につけるためにも、普段の授業や話し合いの中で積極的に発言する姿勢を大切にしていきたいと思った。

☆自分が何をしたいのかを見付けることの大切さを実感しました。たくさんの人との出会いや生活の中で自分を見つめ直せるようにしたいと思います。

☆今の自分は受け身の姿勢になっていると思う。色々な人の話を聞き、それに対して何か反応することで自分の考えを発信できる人間になりたい。



## ②ディベート・課題研究基礎 5月13日(水)・27日(水)

- ・目的：ディベート及び課題研究の基礎的なスキルを学ぶとともに、創造的な対話が成立するために必要な力を身につけるトレーニングとして有効な「(アカデミック)ディベート」のエッセンスを学び、実践する。
- ・内容：東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科准教授 綾部 功氏と中央大学文学部(社会学)教授 矢野善朗氏による講義と演習。



- 1回目：ディベートの概要と方法について、英語ディベートの体験、テーマは“It is better to have school trips in foreign countries than in home country of the students.”
- 2回目：ディベートの概要と方法についての確認(前回講義内容を再確認)をし、相手の立論に対する反論(Attack)の方法、再反論(Summary)の方法、判定の方法を学んだ。そして前回と同様のテーマでのディベート実践を行った。
- ・成果：英語力の必要性が認識でき、英語の学習の必要性を感じさせることができ、相手の話をよく聞くという、対話を成立させるために必要なことを学ぶことができた。また、「相手の意見との違いから自分の意見を主張することをしてみたい」という学びに対する主体性を持たせることができた。
- ・生徒の感想より

☆ディベートでは自分の意見をいかにわかりやすく伝えるかが大事だと思っていたのですが、実際やってみると相手の意見をしっかり聞くことが大切だと実感しました。

☆いきなりディベートをやって少し戸惑ったけど自分の意見を英語にして論文を書いて発表することができた。このような書く力をつけることも大切だし、相手の意見をしっかり聞いてメモをとってさらに議論を深めていきたいと思った。

☆今回初めてのディベートだったので、発見がいろいろありました。賛成か反対か、その根拠は何か、エビデンスはどうするか、それを深く考えて論を立てることでその論は強くなるし、その悩んでいた分、相手がどう展開してくるのか興味も大きくなると思いました。



### ③ フィールドワーク入門 6月30日(火), 7月1日(水)

- ・目的: 7月末に予定されているフィールドワークに向けて, フィールドワーク及び課題研究の基礎的なスキルを学ぶ。
- ・内容: SGH 海外交流アドバイザー 大宮 透氏による講義と演習
  - フィールドワークとは, フィールドワークの方法, フィールドワークの意義。
  - 「生徒会長になったと仮定して, よりよい生徒会活動をするためにどうしたらよいか。どんな文献を読んで, どこに行き, 誰と会い, 何について調べるか, 1ヶ月のスケジュールを作成する」ということをテーマとした班別での演習。
- ・成果: 一次情報と二次情報の違いを認識し, それとフィールドワークとの関わりについて学ぶことができた。大学での研究において, また社会人となってもフィールドワークは重要であるから, 高校生のあいだにそのスキルを学んでおくことが大切であると認識させることができた。



### ④ フィールドワーク I 事前学習 7月24日(金)

- ・目的: 7月29日のフィールドワークに向けて, コースごと, 班ごとに必要な事項を学ぶ。また, 一次情報を収集するために二次情報を調べるということを体験する。
- ・内容: フィールドワーク当日の日程, 内容, 持ち物等の確認。班ごとに各コースの資料を読んで問題点や疑問点を整理する。
- ・成果: フィールドワーク入門の講義を踏まえた活動ができた。

### ⑤ フィールドワーク I 7月29日(水)

- ・目的: 地域やその周囲にどのような課第があり, それが日本, そして世界のどのような現状や課題とつながっているかを理解する。主体的に一次情報を収集することを体験する。
- ・内容: ○フィールドワークのテーマ「地域から世界が見える」
  - 7つのコースの設定(飯綱高原・戸隠・鬼無里・七二会・小布施・須坂・善光寺界限)
  - コースごとに中山間地域における遊休農地の活用について, 地域の特性を活かした観光立案やまちづくり, 古民家や蔵の再生活用, リノベーションなどを学ぶ。
  - 高校生の視点から各地の課題を発見し, それを解決していくための方策を提案するワークショップを実施。

A-1 飯綱高原「飯綱で農場を営む・地域を創る」10名	10:30 農場体験【草刈り, ヤギの世話など】〈NPO 法人飯綱高原よっころしよ農場〉 → 13:30 芋井地区等の見学と遊休農地活用のワークショップ
A-2 飯綱高原「飯綱を観光地として生かすには」30名	10:30 飯綱火祭り準備作業(灯籠づくりなど)〈オトナリハウス〉 → 13:15 ペンション街などの見学とワークショップ〈ハイランドホール飯綱〉
B-1 戸隠「〈よそ者〉による地域活性化」20名	9:30 戸隠地区農業振興についてのディスカッション〈戸隠農村環境改善センター〉 → 10:30 農地視察と農家の方への聞き取り → 13:30 ワークショップ



B-2 戸隠「戸隠竹細工を意匠的に再定義する」20名	9:30 竹細工の作業見学とディスカッション〈長野市役所戸隠支所〉→10:30 フィールドワーク（自然の幾何学紋様・デザイン探し）→13:30 発表
C 鬼無里「里山を生かす～持続可能な社会へ～」40名	9:50 皮むき間伐〈鬼無里萩ノ峰〉【林業体験】→13:30NPO 法人まめってえ 鬼無里 前理事長大日方聰夫氏による地球温暖化対策に関する講話【里山の保全や太陽光発電について】
D 七二会「中山間地域の過去・現在・未来」36名	9:30 ソルガムの講義【信州大学天野良彦教授】〈善福寺ソルガム圃場〉10:00 ソルガム収穫【遊休農地活用で注目されるソルガムに触れた】→13:30 七二会の歴史・文化の学習〈長野市役所七二会支所・七二会郷土歴史資料館〉
E 小布施「全国的注目の小布施の町づくりを学ぶ」40名	10:30 小布施の町づくり見学 → 12:30 聞き取り調査 → 14:00 グループ発表〈小布施商工会〉
F 善光寺界限「まちへ飛び出せ～空き家は可能性に満ちている～」41名	9:30 リノベーションについて〈SHINKOJI プロジェクト 東町ベース〉【数多くのリノベーションを手がける MYROOM 倉石智典氏より事例紹介】→10:30 空き家見学会 →13:00 ワークショップ【見学した空き家の活用法をグループで考案・発表】
G 須坂「ぼくらはなぜ景観を作るのか」39名	10:00 「須坂景観作りの会」メンバーの話〈蔵のまち観光交流センター〉→13:00 町並み見学【蔵の町並みや黒塀の見学】と聞き取り調査

- ・成果と課題：各コースのステークホルダーの方々に体験活動や聞き取り調査など、充実した内容で実施していただけた。多くの生徒が主体的に取り組むことができた。希望するコースの定員が超過してしまい、別のコースにしてもらった班が出てしまった。
- ・生徒の感想より

☆知っていると思った町でも知らないことがたくさんあって、魅力だけでなく課題なども知ることができた。

☆二次情報では得られない情報があることがわかった。二次情報から知識を得た後、現地で確認したり新たな問題を発見でき、テーマへの関心が深まった。

☆聞き取り調査ではその場の状況を明確に知ることができ、非常に勉強になった。





#### ⑥ フィールドワーク I 報告会 9月1日(火)・2日(水)

- ・目的：7つのフィールドワーク先の情報を発表し合い、クラス内で各コースの情報を共有しあう。また、次回のフィールドワークに向け、改善点を考えるとともに、プレゼンテーションの練習をおこなう。
- ・内容：班ごとにフィールドワークのまとめと考察をする。係で用意した事前学習資料、テーマ設定まで含めて検討を加えた。そして班ごとにフィールドワークの内容・得られた情報・新たな疑問点を発表した。

#### ⑦ 「グローバルなキャリア」 9月19日(土)【日新館土曜セミナーとして実施】

- ・目的：進路選択を目前にした1年生が「職業」について考え、また、これからの「職業」にはグローバルな要素が必要であることを知った上で、グローバルな職業に就いている人の体験を聞き、進路選択に生かす。
- ・内容：○グループワーク（1「職業」って何だろう？そこで必要とされるグローバルな要素 2自分が就いてみたい職業、やってみたい仕事 3グローバルな仕事に必要な力って何だろう？についてグループ内で意見交換、マッピング作成）  
○日本経団連国際経済本部上席主幹, ガールスカウト世界連盟理事 和田照子氏による講演会「卒業生が語るグローバルなキャリアの醍醐味～有意義な進路選択のために～」。自身の経験をもとに、グローバルなキャリアが持つ難しさとやりがい、必要な資質や磨くべき能力、ローカルな足場の重要性をご教示いただいた。希望する保護者も参観した。



- ・成果：グループワークでは、「仕事」との違いについて考えることで多くの生徒が「職業」の社会的あるいは人間的意味に気づいた。講演会では、世界の最前線で「二足のわら

じ」をきっちりこなす秘訣を聞き、心に深く留めた生徒が多かった。「英語はツール」であり、まず異文化への洞察力や人間観察力が大事との話にも深くうなずいていた。

・生徒の感想より

- ☆グローバルな職業に必要な力を考えてみて、やはり最初に浮かぶのは語学力だったけど、その他にも情報を収集する力や発信する力など様々な力が必要だということがわかりました。
- ☆自分の進路がまだはっきりしていない中でこのような講演が聞けて、とても参考になった。和田先生のように興味のあることは自分で調べて将来の夢を見つけていきたいと思う。
- ☆やって来たチャンスは絶対に無視しないで、とりあえずチャレンジし、自分のベストを尽くすという和田先生のモットーを見習って、自分ももっと挑戦していきたい。

**⑧フィールドワークに向けて その1 10月2日(金)**

- ・目的: 課題研究Ⅱの分野と考えられるテーマ例を提示し、課題研究Ⅱへの意識付けをはかる。
- ・内容: 分野の提示と、考えられるテーマ例を提示した。その上で、班構成に関して、自分で仲間を募って班を構成するか、推進室の提示したフィールドワーク先を参考にして班を構成するかを考えさせた。
- ・成果: これからの課題研究Ⅱに対しての意識を高めることができた。また自分で仲間を募り、自分達のテーマで研究を進めたいという生徒(班)が複数存在することがわかった。

**⑨フィールドワークに向けて その2 10月13日(火)**

- ・内容: 希望する分野の調査と自分達で仲間を募りたいという生徒について調査した。また、フィールドワーク先候補を提示した。
- ・成果: 推進室で提示した分野のうち、「地域づくり」分野と「芸術」分野の人数が極端に少なく、分野として成立できないということがわかった。自分達で仲間を募りたいという生徒が20名程度存在することがわかった。その生徒に対して23日までに班員を確定することを伝えた。

**⑩フィールドワークに向けて その3 10月22日(木)**

- ・内容: 班構成についての説明とフィールドワーク分野内コースの提示を行った。
- ・成果: クラス内で同じ分野を希望する生徒が集まり、フィールドワーク分野内コースを参考にして、班編成についての話し合いが自主的に進められた。

**⑪ガイダンスの実施 10月28日(水)**

- ・目的: 自分達で仲間を募って班を構成した生徒を集め、今後の進め方についての説明をする。
- ・内容: 自分達でフィールドワーク先を探すことを指示した。アポイントメントの取り方やその先の手続きの仕方について説明した。
- ・成果: 自主的に班を構成したのは5クラス18名の生徒となった。自分達のテーマを決定し、自主的にアポイントメントを取った。

**⑫フィールドワークに向けて その4 10月29日(木)**

- ・内容: 班の決定とフィールドワーク分野内コースの希望調査を行った。



- ・成果：課題研究Ⅱの班が確定した。

### ⑬フィールドワークに向けて その5 11月9日(月)

- ・内容：確定した班と班別のフィールドワーク先を生徒に提示した。

### ⑭フィールドワーク事前学習「テーマと課題を設定しよう」 11月17日(火)・18日(水)

- ・目的：課題研究Ⅱの目的を理解させる。個々の研究力を高める事を目指し、個人で研究したいテーマをしっかりと考えさせる。
- ・内容：個人で分野内の情報を集め、自分がどのようなことを深く調べ考えていきたいか、フィールドワーク先にそのことに関わるどのような課題があるのかを考え、それを踏まえて自分で研究してみたいテーマを設定した。その後自分の設定したテーマや課題を班内で共有しあった。



- ・成果：研究をしていくうえで二次情報の収集が必要であることを再認識した生徒が多かった。研究途中に図書館で調査をしたり、個人のスマートフォンで情報を収集したりしている生徒が多く見られ、「個々の研究力を高める」という目標とした段階に生徒を立たせることができたと思われる。

### ⑮フィールドワーク事前学習「テーマと課題の確認、フィールドワーク先での質問事項」12月1日

- ・目的：翌日のフィールドワークの準備と、フィールドワーク先での調査事項の整理を行う。
- ・内容：フィールドワークの日程確認、注意事項、バス移動についての説明を当日の引率者がおこなった。次に各自の調査について、「自分が設定したテーマや自分で考えた社会課題のうち、フィールドワーク先での調査で確認できそうなこと」や「そのためにはどんな質問をしたらよいか」等の最終確認をした。その後、班内で情報交換し、自分の発想と異なる質問・面白いと思った質問を挙げさせ、他者の異なる視点に気づかせるようにした。
- ・成果：班別学習をとおして自分と異なる発想に気づかせる事ができ、多面的・多角的な事象へのアプローチの意義を学んだ。それを踏まえて質問事項を再検討した生徒もいた。

### ⑯フィールドワークⅡ 12月2日(水)

- ・目的：事前学習で自身が設定したテーマや考えられる課題を、現地の調査をとおして再確認する。主体的に一次情報を収集し、自身の研究を深める。
- ・内容：SGH 事業推進係が設定した「スポーツ、食品・農業、生産財、自然・環境、教育、歴史・文化、医療・健康」の7分野12コースと、自分たちでアポイントメントをとった5班が調査に向かった。フィールドワーク先では講演・質疑応答・体験・グループワークがおこなわれた。

研究領域	コース	フィールドワーク先
スポーツ	A-1	9:30 スポーツ施設の現状についての講演【オリンピック施設, スポーツ人口や地域への影響について】〈株式会社エムウェーブ〉 → 13:30 地元プロチームの活動についての講演【AC長野パルセイロの活動】〈南長野運動公園〉
	A-2	9:30 スポーツ施設の現状についての講演【オリンピック施設の維持】〈株式会社信州スポーツスピリット〉 → 13:30 スポーツ環境に関する講演【都市部との情報格差】〈株式会社エムウェーブ〉
食品・農業	B-1	9:30 ブランド化についての講演【生産, サービス, 流通】〈株式会社八幡屋礪五郎〉 → 13:30 長野県の農業に関する講演【TPPの影響, 国産農産物や県内農業のこれから】〈長野県農業試験場/果樹試験場〉
	B-2	9:30 第六次産業について【商品づくりへのこだわり, 市場の確保による地域創生】〈株式会社サンクゼール(本社)〉 → 〈株式会社サンクゼール(信濃町センター)〉
生産財・科学技術	C-1	9:30 企業に関する講和【創業理念や企業理念, 海外戦略について】〈新光電気工業株式会社〉 → 13:30 企業に関する講和【海外への進出やビジネスについて】〈不二越機械工業株式会社〉
	C-2	9:30 企業に関する講話【大企業に対する中小企業】〈株式会社青木固研究所〉 → 13:00 企業に関する講話【長野県に本拠地を構えること, 海外進出について】〈株式会社竹内製作所〉
自然・環境・エネルギー	E	9:15 企業による環境への取り組みについての講話【企業の廃棄物処理, 環境にいいものを作るということ】〈株式会社ミヤマ〉 → 13:30 長野県の環境への取り組みについての講話【人と獣, 害獣被害について】〈長野県環境保全研究所〉
教育・芸術	F	9:30 現在の教育に関する講話【日本の教育研究の方向性, グローバル教育について】〈信州大学教育学部〉 → 13:30 学校現場の取り組みについて【教育方針, 小学校段階からのプロジェクト学習について】〈学校法人 いいつな学園〉
歴史・文化	G-1	9:30 善光寺七福神巡りの体験【ガイドさんへの聞き取り調査など】〈善光寺〉 → 13:30 博物館の現状に関する講話【運営上の課題】〈長野市立博物館〉
	G-2	9:30 考古学や博物館の現状に関する講話【長野県の歴史, 考古学の現状と課題や博物館運営の課題についてなど】〈長野県立歴史館〉
医療・健康	H-1	9:30 新薬開発に関する講話【宮入菌の発見による新薬開発の流れ】〈ミヤリサン製薬株式会社〉 → 13:30 赤十字病院の役割に関する講話【災害時の活動, 災害後の各地域への衛生指導など】〈長野赤十字病院〉
	H-2	10:30 医薬品に関する講話【ジェネリック医薬品普及への課題, 国内での新薬開発の困難さなど】〈寿製薬株式会社〉 → 14:00 ホスピスについての講話【死を受け入れることに対して患者, 家族に対するケア】〈新生病院〉

\*生徒独自の企画によるもの

しなの鉄道株式会社, 長野電鉄株式会社, フォレストデザイン, 株式会社長野ホテル  
犀北館, 株式会社桜井甘精堂



- ・成果：フィールドワークに備えて訪問先の企業や団体の調査・研究, 自分のテーマの設定, 疑問点の洗い出し等々をしてきた成果が, 各フィールドワーク先で活かされた。積極的に質問をする姿が各所で見られた。
- ・生徒のレポートより

☆ホスピスは死期が近づいている人のための病棟であり, 何か静かで暗い雰囲気イメージがあったが, 実際にお話を聞いたり, ホスピス内を見学してみたりすると, 想像していたものとは大きく異なっていた。ホスピスに来る患者は主に限られた命がはっきりしている人だが, 病棟に暗さは全くなく, 音楽が流れ, 明るい場所だった。ホスピスとは, 患者家族の苦痛を取り除き, 生活の回復や残りの生き方を見付けるところである。また人生の総まとめをし, 患者が満足できる死を迎えられるようにしている。どこか和やかな雰囲気が漂っていたのはこのためだった。(医療・健康班)

### ⑰ フィールドワークのまとめ 12月3日(木)

- ・目的：フィールドワークで発見した課題や問題の背後に何があるのかを考え, 発見した課題を深める。自分で設定したテーマを深める。
- ・内容：課題やそれに対する取組の現状を調査し, その取組にどのような問題があるか, どのようにして問題を解決したらよいかを考える。その上で個人レポートを作成する。その際に自分の考えの根拠やデータを示すよう徹底した。
- ・成果：フィールドワークによる一次資料の収集, 研究を進める上での二次資料の収集をとおり, 個々の研究力が徐々に高まってきていると思われる。

- ・生徒のレポートより

☆TPP への参加はプラスになる産業もあればマイナスになる産業もある。農業は価格では海外のものより高いので不利であるが、高い質や安全性を「ブランド」としての魅力にし、売り上げを伸ばそうと戦略を考えていた。その戦略のうち、地球温暖化対策の研究も盛んであった。2度上昇を想定したハウス栽培実験や、高温に強い品種開発など先を見据えた研究がされていた。TPP は全体としてはプラスになるも、農業にはマイナスになるというのが私の予想だったが、これらの話を聞いて日本も農業で世界と戦える可能性があると思った。(農業・食品班)

#### ⑱課題研究Ⅱ「班で発表するレポートの作成その1」 12月15日(火)・16日(水)

- ・目的：2月2日・3日の課題研究中間発表会に向けて、個々の研究を踏まえて班で発表するレポートを作成する。
- ・内容：個々の研究を踏まえて作成したレポートを班内で読み合わせ、1本のレポートを班の骨格となるレポートとする。そこに班員全員で肉付けをし、班のレポートとする。班内で発表原稿とパワーポイントの担当箇所を決め、次回の総合学習までにそれを完成させる。
- ・成果：自分の研究を踏まえて班のレポートを作成する事になるため、自分の研究に対して異なる視点を持つことができるようになり、班研究とともに個人の研究も深めることができた。

#### ⑲課題研究Ⅱ「班で発表するレポートの作成その2」 1月12日(火)・13日(水)

- ・目的：2月2日・3日の課題研究中間発表会に向けて、個々の研究を踏まえて班で発表するレポートを作成する。
- ・内容：班内で分担した発表原稿とパワーポイントを持ち寄り、主張はデータなどの根拠に基づいているか、論理に整合性があるか、などの検討をおこなう。その後に発表原稿とパワーポイントを1つにまとめる。
- ・成果：多くの生徒は自分の担当箇所を作成し授業にのぞむことができた。しかし一部の生徒は作成が間に合わず、授業内で1つにまとめることができない班も見受けられた。冬休み中に自分たちの分野に関わる本を1冊以上読み、他の班員に紹介することができた。
- ・生徒レポートより

##### 【教育班】

- (i) テーマ設定とその理由：「これからの教育のあり方」

二極分化が進んでいる中、グローバル化に対応する人間を育成するにはどのような教育をするべきなのか、また教育に関する諸問題を解決するような教育のあり方を考えるため。

- (ii) 課題の現状：二極分化、生活環境の変化、脱ゆとり、必要とされる人材の変化、教育格差

- (iii) 背景・原因の考察：「脱ゆとり」、グローバル化に伴う人材を育成するため、日本の向上に向けて「必要とされる人材の変化」：言われたことをこなす人間から世界に出て通用する人間へ、「教育格差」(家庭所得により高校や大学に行かない有能な生徒、高所得層の国公立志望、母子家庭の増加)

- (iv) 課題への取組：

「脱ゆとり」教科書の中身増量、詰め込み教育(?)

「必要とされる人材の変化」SGH, SGU

「教育格差」奨学金などの経済援助  
 (v) (iv) に対してどのような課題がありそうか：学校の学習についていけずに不登校になる生徒が存在する

⑩課題研究Ⅱ「発表会のリハーサル」 1月18日(月)

- ・目的：2月2日・3日の発表会を成功させるためにリハーサルをおこなった。
- ・内容：フィールドワーク別に分かれた14会場で発表のリハーサルと質疑応答をおこなうとともに、当日のファシリテーター役の生徒が進行のリハーサルをおこなった。

⑪「課題研究中間発表会」 2月2日(火)3日(水)

- ・目的：課題研究Ⅱで取り組んできた研究を班ごとに発表し討論することで、自分達の研究の成果と課題を確認するとともに、プレゼンテーション技術を高める。
- ・内容：4～5班ずつ各会場に分かれ、発表と質疑応答を行い、外部からお招きした講師から発表についての指導、助言をいただく。

・日程：2月2日(火)5・6時限(13:50～15:50) 1年5・6・7組

講師：信州大学教育学部助教	林 寛平氏
株式会社サンクゼール代表取締役専務	久世良太氏
株式会社マイルーム代表取締役社長	倉石智典氏
長野県教育委員会教学指導課主任指導主事	廣田昌彦氏
長野県総合教育センター専門主事	内川源弘氏
長野県総合教育センター専門主事	齋藤俊樹氏

2月3日(水)3・4時限(10:45～12:45) 1年3・4組

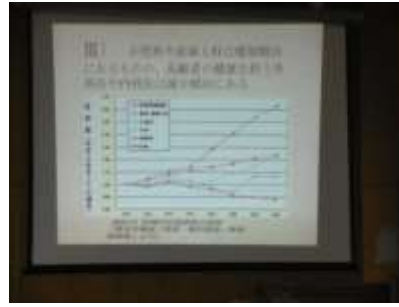
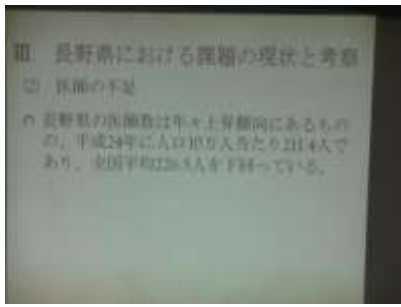
講師：長野県農政部農産物マーケティング室企画幹	長谷川正之氏
長野市善光寺表参道ガイド協会事務局長	丸山正昭氏
長野県NPOセンター事務局長	山室秀俊氏
株式会社エムウェブ代表取締役社長	土屋龍一郎氏
アドバイザー：不二越機械工業株式会社	田宮公文氏

2月3日(水)5・6時限(13:50～15:50) 1年1・2組

講師：信州大学地域戦略センター准教授	林 靖人氏
長野県農政部農産物マーケティング室企画幹	長谷川正之氏
株式会社ミヤマ広報室	小林正征氏
フォレストデザイン	榊原倫代氏
アドバイザー：寿製薬株式会社	中山浩幸氏







・発表例（2月2日） プログラムより抜粋

5組 生産財	長野県の技術が世界と戦うにはどうするべきか	技術・コスト・歴史から私たちの班が考えたことをまとめました。
5組 教育	これからの教育のあり方	グローバル化が進む現代において生じる諸問題、子ども達はどのような教育を受けるべきなのかをまとめてみました。
6組 歴史・文化	慰霊碑の現状と保存における課題	フィールドワークで慰霊碑についてお話を聞き、そんな身近な存在の慰霊碑の課題と現状をまとめました。
5・6組 自然・環境	環境を知る	今世界的な問題となっている環境破壊。これは私たちにどのような影響が出るか、また対策は何か考えました。
7組 スポーツ	長野県のスポーツの発展	長野県のスポーツの課題を発見し、それぞれの課題についての取組を調査しました。
7組 医療・健康	ホスピス～死との向き合い～	死までの間をよりよく生きるホスピスについて研究しました。

・発表例（2月3日） プログラムより抜粋

3組 食品・農業	知ってますか？長野の魅力！	知られざる長野の魅力を広める方法について「六次産業」に着目して調査し、様々な角度から考えました。
3組 医療・健康	医療の新しい選択と問題	現在、日本の医療は日々大きな成長を遂げています。その一方で、立ち塞がる問題について研究しました。
4組 生産財	中小企業と大企業の生き残り方	中小企業と大企業の課題点の現状と背景を、中小企業、大企業の視点から考察します。
3・4組 教育	日本の教育の今	グローバル化に対応した教育を考えると、詰め込み教育が1つのポイントになると考え研究してきました。

・発表例（2月3日） プログラムより抜粋

1組 生産財	半導体中小企業の世界への挑戦	長野県の中小企業が半導体で世界で活躍するにあたっての課題などを調査します。
1組 食品・農業	長野の農業をさらに活性化しよう！	長野の農業経済の実態の課題から見たこれからの未来へとつないでいくための対策を私たちが考えました。

2組 スポーツ	スポーツ発展途上都市「NAGANO」	長野市のスポーツの課題について、あらゆる立場から考察しました。
2組 自主編成 (フォレスト)	あなたは知っていますか？	国土の3分の2を自然に覆われた国日本。その自然に今危機が迫っているのを、あなたは知っていますか？

- ・成果：個々の研究を踏まえて班でそれを深めていくという方法を使ったことで、「個」の学びと「協働」の学びを繋げていくことができた。生徒は班内のメンバーに研究、発表資料作成、原稿作成について依存することなく、主体的に研究や発表に取り組むことができた。発表はリハーサルとその後の修整の成果が出た班が多かったが、アイコンタクトやパワーポイントの作成について、課題を残した班もあった。生徒は自身の発表を「振り返りシート」で見つめ直し、また他班の発表の良い点や改善点を指摘し合い、次年度の本研究での発表に向けての良い経験となった。（生徒のプレゼンテーション原稿については『課題研究集録第2号 國の光を観る』に収録）

・生徒のレポートより

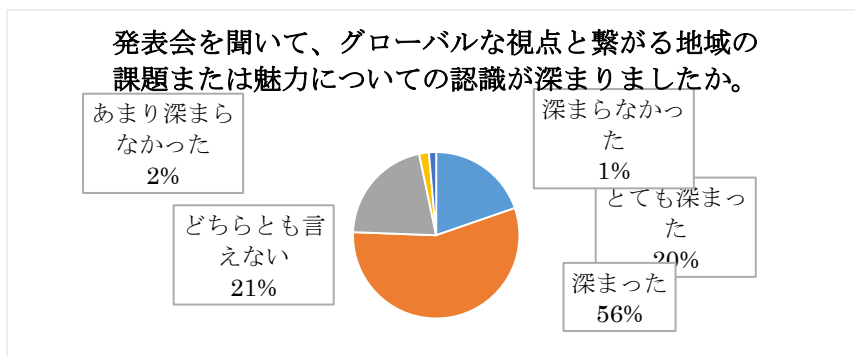
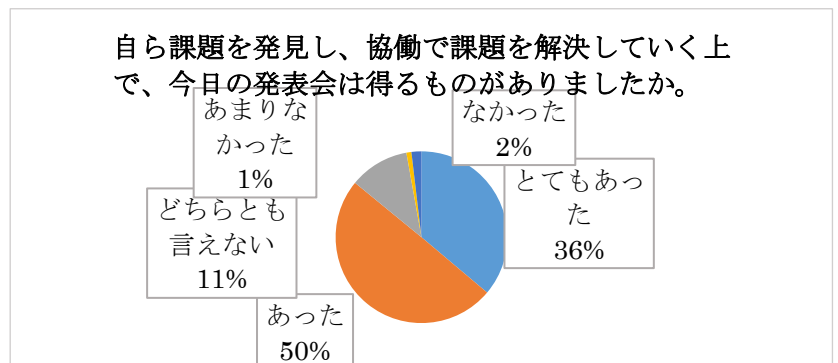
☆自分たちは調べてわかっているが、聴衆はまだ何も知らないということを念頭に置いて発表を制作していくべきだと思った。

☆今回の発表は質問が少なかったので、聴衆に「もっと知りたい」と思ってもらえるようにしたい。

☆自分の気になったことや関心を追究し、自分も発表を聞く方も楽しめるような研究をしていきたい。

☆データをとことん調べ、様々な切り口から課題を考えていきたい。効果的なパワーポイントの作り方も研究していきたい。

・生徒アンケートより



## ② 課題研究論文作成 2月4日(水)～3月4日(金)

- ・目的：課題研究中間発表会での発表とそこでの聴衆の反応を踏まえ、研究の成果を論文にまとめ上げる。
- ・内容：発表原稿とパワーポイントを基にしながら研究論文を作成する。その際に課題研究中間発表会で出された質問や講師からのアドバイスを盛り込んだ内容にする。
  - 2月10日(水) 第一次締切
  - 2月12日(金)～2月17日(水) 班担当教員による指導
  - 2月29日(月) 第二次締切
  - 3月1日(火)～3月4日(金) 班担当教員によるチェック、『課題研究集録第2号 國の光を観る』に収録される論文を決定
- ・成果と課題：指定された一次締切までに間に合わない班が多く見受けられた。内容については、データや根拠に基づいた論を展開できている班が多かった。2学年に比べると文章の稚拙さが目立ったが、次年度の研究やレポート作成をとおして成長していくことを期待したい

## 2 「世界から見た長野のグローバル戦略」(総合的な学習の時間)

(1) 単位及び授業時間 1単位 隔週で2コマ連続(55分×2)

(2) 対象 2学年生徒

(3) 科目の目標

1年次総合「長野のグローバル戦略を探る」での探究活動を通して培った、思考力・判断力・課題解決能力・発信力を発展・深化させるとともに、新たに「世界から見た」という視点を加え、海外との比較などよりグローバルな視点を持ち研究を行う。

また、探究活動の成果を提案・発信する「プロジェクト」を実行する。

(4) 授業内容

### ①オリエンテーション「SGH 2年目の船出に」 4月22日(水) 学年全体

- ・目的：SGH事業推進係より、生徒が積極的に活動に参加できるよう、あらためてSGHの意義を解説し、今年度の活動の概要を1年次との相違点を中心に理解させた。
- ・内容：パワーポイントを用い、なぜ今SGHなのか？グループ活動、フィールドワークの重要性、「観光」の定義などについて説明するとともに、2年次に新たに加わる要素、各班でプロジェクトを企画実行すること(課題研究に目的意識をもつ)を中心に、今年度の活動の概要を説明した。
- ・成果：「観光」という言葉の捉え方、新しく加わった「プロジェクト」というものに対して、一定の理解は得られた。まずは、1年からの単なる延長ではなく、これまでの問題点を乗り越えて充実した課題研究を創りあげようというメッセージを伝えた。

### ②プレゼンテーション講座「効果的なプレゼンテーションとは」 4月22日(水) 学年全体

- ・講師：山田 崇氏(長野県塩尻市役所・企画政策部企画課シティプロモーション係職員)
- ・目的：11月に最終発表を控え、人の興味を引きつけるプレゼンテーションがどのように創られるのかを知



るとともに、他者への意識が重要であることやその方法を学ぶ。

- ・内容：前半は、実際にプレゼンテーションを行っていた  
だきながら、様々な要素、留意点などについて講義を受けた。後半は、プレゼンテーションおよびプロジェクトについて質疑応答を行った。
- ・成果：プレゼンテーションによって、いかに聴衆にアピールすることができるかなど生徒には刺激になった。質問も多く出され、予定の45分では足りず、終了後まで講師の山田氏に質問をするする生徒の姿が見られた。また、このプレゼンテーション講座から、生徒のスタッフが企画から参加するようになり、企画打ち合わせの段階で、もっと生徒中心に会を運営したいというような積極的な意見が出していた。
- ・生徒の感想より

☆同じ言葉を繰り返したり、歩き回ってボディランゲージをしたり、緩急をつけて話したり、実際にプレゼンする場所でスライドの最終調整をしたりとプレゼンテーションで重要なことを肌で感じることができた。

☆プレゼンテーションをするときには、聴衆を「みんな」としてみるのではなく、「ひとりひとり」としてみるのが大切だということが印象に残りました。

☆これからプロジェクトを立ち上げていくということで不安もあるが、「やってみなくては分からない。まずは一步やってみよう」という言葉が印象的でした。また、「だめだと思ったらやめればいい」と言われ、安心しました。

### ③研究テーマ、プロジェクトの決定、フィールドワークの計画 5月21日(木)、6月3日(水)

- ・目的：研究テーマ、プロジェクトを決定。先方とのアポイントなどの折衝も生徒自身で行うことにより、自主性、コミュニケーション能力などを育む。
- ・内容：班ごとに話し合い、研究テーマ、プロジェクトを決定。フィールドワーク先の選定を行い、電話連絡をとり予約を行った。
- ・成果：研究グループを、原則として1年からの継続としたため、研究テーマについても、基本的に1年次からの継続、またはその関連となった。そのため、1年次順調であった班は、テーマ決めなども速く、スムーズに2年の研究を始めることができた。一方、1年次の研究がうまく進められなかった班、または、研究発表で自分たちの発表に対して課題を指摘された班は、テーマ決めについても苦労したようである。しかし、班担当の教員と相談したりしながら方向性を見出したり、テーマ決めを行うための調査としてフィールドワークを計画したりするなど、課題解決のための努力が見られた。

### ④フィールドワーク 6月17日(水)、7月29日(水)

- ・目的：班ごとにフィールドワークを行い、1次情報の重要性を学びながら、研究、プロジェクトを進める。
- ・内容：今年度より、総合の時間は午後2コマ連続とし、各班の研究の進め方にそって、希望するときにフィールドワークを行うことを可能とした。

班	フィールドワーク先	内容
スポーツ分野 3班	長野県庁スポーツ課	1998年の長野オリンピックにおいてボランティアまたは職員として関わった方へ聞き取り調査【大会運営や選手の様子など】

食品・農業分野 2班	ドライフルーツ専門店 ripe	経営者の方への聞き取り調査【海外進出，客層，商品，長野に拠点を構えることについて】
食品・農業分野 15班	長野県短期大学	郷土食に関する調査【各地での郷土食の発祥，実物の試食】
生産財・林業分野 1班	長野市役所都市計画課	県産木材を使用した建築物に関する調査【長野駅の建築過程，県の補助金制度についてなど】
地域づくり分野 5班	善光寺・善光寺周辺	善光寺周辺の散策，インタビュー調査【体験イベントへの参加，善光寺周辺でのおすすめの店舗の聞き取り，観光の目的の調査】
地域づくり分野 6班	小布施町町役場 小川村（地区の方の家・村役場）	小布施の観光地としての発展についての調査【地域ブランド化への過程】 小川村の町おこしに関する調査【町おこしの方向性】
自然・環境分野 7班	おもてなしイタリアン 和伊ん	ジビエに関する調査【流通や価格，発展への課題，実物の試食など】
教育・芸術・歴史・文化分野 11班	クリエイティブクラフト株式会社 寺島デザイン室	デザインについての調査，Web サイト作成にあたっての技術の習得【デザインの考え方や使い方，Web デザインの構成や構造の技術について】
健康・長寿分野 2班	千曲乃湯しげの家	健康長寿と食との関係についての調査【和食の食材，調味料へのこだわり】
健康・長寿分野 9班	東筑摩郡筑北村役場	薬草栽培事業に関する調査【事業の始まりや今後の展望について】

- ・成果：多くの班がこの2日間にフィールドワークを行った。一方で，先方の都合であるとか，研究の進度のため，他の総合の時間の日にフィールドワークを行う班もあり，柔軟な対応が可能となった。班別フィールドワークは1年次にも行っており，1年次はある特定の施設を訪れるものであったが，今回は，街頭でインタビューであるとか，善光寺門前の商店の聞き取り調査などをする班もあり，バリエーションに富むものとなった。また，例えば同じ農業に関する調査でも1年次には行政機関，今回は現場というように，異なる立場からの見方を学ぶなど各班の工夫が見られた。





しかし、フィールドワークによる調査にたいし、それを考察するための2次情報の収集が十分でないケースが多いという課題が残っている。（「…では、こう言っていました。」で終わってしまう。）事前、事後の調査の重要性も指導していく必要がある。

・生徒の感想より

☆2回のフィールドワークで2社を訪問したが、どちらの社長も「生活環境の良い地域で工業をするとよい製品が作れる」というような言葉で長野県の良さを表現していた。また、今まで広く長野県の工業ということでみてきたが、その歴史、発展の仕方はさまざまであり、もう少し細分化して調べる必要があると感じた。

☆今回のフィールドワークで、村の人々が、村を観光地として盛り上げたいと思っているのではなく、若者の定住者を増やしたいと望んでいることが分かった。そのような人々への発信を考えたい。また、私達と村の人々との距離を縮めたいと感じた。

☆フィールドワークなどの実際に活動をする時間はとても有意義でした。

**⑤班担当教諭との打ち合わせ 7月8日（水）**

- ・目的：班担当教員との相談、打ち合わせは、随時行うものとしてきたが、班によりそれが行われないケースも見られたため、授業時間中に設定をした。
- ・内容：30分程度の時間を確保し、担当教諭に研究内容、プロジェクトについて相談し、評価してもらった。
- ・成果：生徒のみでは研究の方向性が見出せず、その結果課題研究へのモチベーションが下がり、そのため担当教諭にも相談に行かずという悪循環になっていた班もあったので、担当教諭とのコミュニケーションによって、少しずつ前進できた。

**⑥中間発表 7月22日（水） 研究分野ごと**

- ・目的：発表する機会を設けることによって、自分たちの研究の進捗状況などについて現状把握をするとともに、他班（第三者）から意見、感想を聞く。また、他班の状況を聞き、今後の研究活動に生かした。
- ・内容：1班5分程度で、研究テーマと内容、フィールドワーク先などを発表し、質疑応答を行った。
- ・成果：2学年になってから、他班の研究について知る機会が今までなかったが、他班の状況を知り、今後の参考にすることができた。
- ・生徒たちの課題研究テーマの一例：

☆信州の民話を分析して、その世界観・人間観を世界の民話と比較し、研究成果をリーフレットにして国際交流団体等で使っていただく。	信州大学の留学生にアンケート調査。
☆「絹の町」として発展してきたグローバルな特徴をいかに、須坂市の新しい観光用CMを作成する。	須坂市商業観光課などを調査。
☆新幹線を利用して長野市を訪れた20代の観光客が利用できる日本語・英語の観光マップ（リノベーションなどに注目したもの）を作成する。	善光寺周辺の体験型プログラムを体験し、既存のパンフレットを調査。

☆荒廃農地の復興のあり方についての研究（荒廃農地が生まれた歴史的背景，その課題が克服されないでいる原因などについても調査・研究する。）	杏っ子ハーモアグリ，大王わさび農場などを調査。
---	-------------------------

### ⑦発信に向けての講習会 9月9日（水）

- ・目的：4つの発信手段による発信方法を学ぶ。
- ・内容：ビデオ，パワーポイント，紙面構成，WEB の4つの講座に分かれ発信方法を学んだ。ビデオは放送部生徒，紙面構成は新聞部生徒，パワーポイントおよびWEBは本校教員が講師を務めた。

### ⑧発表会までの計画及び確認，プロジェクトの準備または実行 10月7日（水）

- ・目的：プロジェクトおよび発表会までのスケジュールを作成し，作業を確認する。課題解決のためのプロジェクトを通して，課題解決のための手法を学び，考え，経験する。
- ・内容：授業前半は，班担当教諭を交え，課題発表会までの残りの授業（4回）のスケジュールを作成し，プロジェクトの実施と研究発表スライドの作成役割分担など確認を行った。授業後半では，前回の授業で学んだ発信方法などを用い，課題解決のためのプロジェクトの準備および実行を行った。
- ・成果：課題研究発表会までの回数が少なくなってきたが，各班で進捗状況に差が出てきた。スケジュールを立てることによって，遅れていた班も現状を把握することができた。プロジェクトは，まだ実行に移したり，形にできたりした班は少ないが，徐々に成果物ができてきた。

### ⑨研究のまとめと報告準備（PPT&発表原稿作成）10月21日（水），11月4日（水）

- ・目的：1年次から行ってきた研究，フィールドワーク，2年次のプロジェクトなど総合的にまとめ発表する。
- ・内容：パワーポイントを用い，2年間の活動の成果をまとめ，発表するための準備を行う。
- ・成果：研究段階では，グループ内での役割分担が明確ではなく，研究への関わり方も生徒により濃淡があったようであるが，まとめではスライド作成，プロジェクトの発信物の作成など分担をして仕事を進めることができた。今後は，研究段階でも個々が積極的に関わられるような形を検討したい。

### ⑩リハーサル 11月11日（水）

- ・目的：発表内容，構成，方法などの最終チェックを行う。
- ・内容：プロジェクターを使用し本番と同様に発表を行い，内容などの最終チェックをし，班担当教諭からのアドバイスを受けた。

### ⑪課題研究発表会（善光寺グローバルプレサミット）11月12日（木）

- ・目的：2年間の活動を通して得た研究成果，プロジェクト，プレゼンテーション技術について，総合した成果として発表を行った。
- ・内容：
  - 13:40-14:55 分散会～15会場，59班がプレゼンを行い，1・2年生が全員参加して討論をおこなう

○15:15-16:40 全体会～4班がプレゼン（うち3班は英語による）を行い，1・2年生，ゲストの留学生・他校生と討論し，3名の講師が全体講評

<全体会次第>

学校長・SGH スタッフリーダーの挨拶

課題研究発表および質疑

1. 健康長寿分野9班 「Pillars of Longevity」
2. 教育・歴史・芸術・文化分野2班 「観て。食べて。歩いて。須坂」
3. 地域ブランド分野6班 「そうだ、小川村に住もう」
4. 教育・歴史・芸術・文化分野3班 「Traditional Education of NAGANO」

講評 林 靖人氏（信州大学地域戦略センター准教授）

長谷川正之氏（長野県農政部農産物マーケティング室企画幹）

ダニエル=トパル（本校グローバル講師）

ゲスト留学生 信州大学より中国からの留学生4名

ゲスト高校生 上田高校より5名

<全体会の様子>



<分散会の様子>



## <分散会プログラム>

分散会	1			2			3			4		
	班名	タイトル	言語	班名	タイトル	言語	班名	タイトル	言語	班名	タイトル	言語
1	B-7	The Creation of Kinoko-food Culture(きのこ食文化の創造)	英	E-5	LEAVE IT! ~よき長野の山を未来へ~	日	D-1	伝えたい魅力がいっぱい信濃町	日	F-12	理想の美術館	日
2	F-6	真田幸村をPR	日	E-1	長野の水、日本の水、世界の水	日	B-2	Let's introduce Nagano's fruit!	英	D-5	目指すべき長野市の観光のあり方ー記憶に残る長野	日
3	A-3	"New" Olympics in Nagano	英	F-1	地域のお祭りの魅力を見つめなおそう	日	E-2	Save Energy Save Earth	日	B-5	伝統野菜を広めたい!!	日
4	B-8	長野発りんごの新たな可能性	日	A-4	菅平は凄平	日	E-4	信越自然郷をひろめよう	日	D-4	THE AZUMINO	英
5	E-3	国立公園に忍び寄る影	日	A-2	Nagano Olympic	日	F-9	善光寺御開帳	英	B-12	Shinshu Soba	日
6	F-14	新生「信濃の国」	日	B-15	郷土食マップ	日	G-5	温泉とソーシャルキャピタル	日	E-6	長野の気候・桃を知ってもらおう!	英
7	G-6	松川村や医療から学ぶ健康長寿	日	A-1	長野県のスキー・スノーボードの魅力を発信しよう!	日	F-5	軽井沢を長野の窓口にしよう	日	B-13	ジビエ	日
8	B-1	輝けながのりんご3兄弟!	日	D-2	そうだ、上田に行こう。	日	F-13	信濃の国	日	C-1	Forestry	英
9	G-1	平均寿命と健康寿命	日	B-14	SA・MU・RA・I 寿司	英	F-4	新"教育県"長野へむけて	日	C-2	K's story	日
10	G-3	長野県の健康と食の関係	日	D-3	上田の魅力を発信し隊	日	B-6	The charm of Nagano apple	英	F-10	長野いーもんin門前町	日
11	G-8	味噌汁と健康	日	B-16	KINOKO	日	F-15	長野県の民話	日	G-2	健康旅~長野の魅力を発信しよう~	英
12	G-4	キノコを食べて健康になろう	日	B-10	おやきの今	日	F-8	長野県の自然と神社	日	E-7	長野県のジビエを広めよう!	英
13	G-7	長野県の健康長寿の要因	日	B-3	長野県のリんごの独自性を発信する	英	C-3	長野県の工業を知り、広める	日	F-7	川中島の戦いの真相とは	英
14	E-8	Issues of forests in Nagano	英	F-11	Webサイトをデザインする。	日	B-11	信州食ブランディングに向けて	日	B-4	信州のそば~新品種ひすいそば~	日
15	C-4	長野県の工業の魅力	日	G-9	Pillars of Longevity	英	B-9	日本のおやきを海外へ	日			

### ・生徒の感想

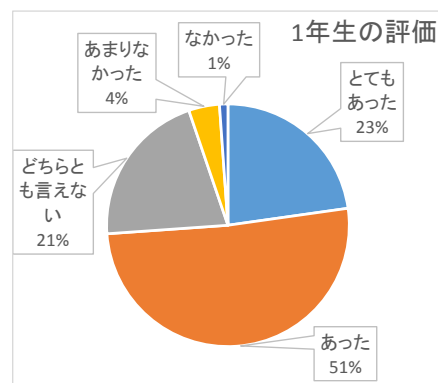
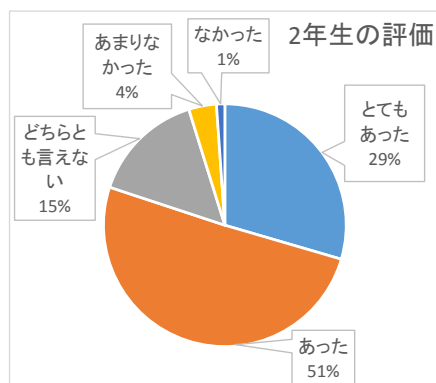
☆プレゼンは「わかりやすく」「おもしろく」することが大切であると思った。自分の班でも、初めはスライドが見にくかったり、字が多すぎて理解しにくかったりということがあったが、シンプルに行くことで伝わりやすくなることが分かった。また、「おもしろく」伝えることで、funnyがinterestingにつながっていくと感じた。台湾研修旅行でのプレゼンに生かしていきたい。

☆英語での発表だったので、うまく理解してもらえなかったかもしれない。もう少し話し合いや意見のぶつけ合いをしたかった。

☆もう一度やり直すチャンスがあれば、先を見通すことを実践したい。私たちの班はこの2年間で目の前の課題を解決することだけに力を使ってしまい、その次にどんな課題があるか考えることをしなかった。最終的には行動選択が狭まってしまった。

### ・生徒の評価

○ 自ら課題を発見し、協働で課題を解決していく上で、今日の発表は得るものがありましたか。



- ・成果：プレゼンテーションに関しては、1年次の発表から大きく進歩することができた。パワーポイントの構成にも工夫が見られ、話すときにも伝えようとする意志がはっきりとみられ、全体の意識としても向上していた。また、進行役のファシリテータの生徒も質問を誘導するなどの工夫が見られた。発表を聞く側としても、昨年はファシリテータに指名されて質問するという状態であったが、自発的に質疑をする場面が多く、また、1年生も積極的に質疑に参加する場面が見られ、議論をする意識が高まってきた。

発表の使用言語としては、英語で発表する班が増えた(61班中17班)。総合学習とともに進めてきた、英語プロジェクトとの相乗効果もあるのではないかと考えられる。ただし、まだ割合としては少ないこと、英語では伝わりにくいか、議論が活発になりにくいなどの反省も生徒からは挙げられており、今後の課題である。

SGH一期生であり全てが初めてであったため、生徒も課題研究全体を通してゴールが見えず戸惑うことが多くあった。しかし最初から決められた道ではなく紆余曲折を経ながら一つの研究を行い、発表会という形でまとめられたことに大きな達成感を感じた生徒もおり、重要な成果であると考えられる。

### ⑫研究論文の作成分担決め 12月9日(水)

- ・目的：1年次から行ってきた研究、フィールドワーク2年次のプロジェクトなどを総合的にまとめ、研究論文としてまとめる。
- ・内容：各班で、研究論文をまとめる。  
内容は、Ⅰ 研究の動機と目的 Ⅱ 研究方法 Ⅲ 研究内容  
Ⅳ 成果と課題 Ⅴ 参考文献  
の5章からなる。本時は班毎に研究論文の大まかな内容を決め、作成分担を決めた。
- ・成果：これまで班単位で活動を行っていたため、研究活動への関わり方に個人差が生じていた。論文作成においては個々の活動を充実させることを狙い、分担をし(文責制にし)、個々の役割を明確にした。

### ⑬研究論文作成(初稿完成) 1月20日(水)

- ・内容：前回の分担に従い、冬休みなどを利用して、個人原稿を作成してきた。本時は個人原稿を集約し、全体としての統一性、整合性、過不足部分の修正などを行い完成させ、初稿として班担当教員に提出した。(班担当教員は、次回までに添削。)

### ⑭研究論文作成(最終稿完成) 1月27日(水)

- ・内容：班担当教員が、添削した原稿をもとに指導を行った。班で再検討、修正を行い、最終稿を完成させた。
- ・成果：文責制にしたことで、個々の生徒がしっかりと活動をできた。ただし班によっては、まとめの段階で十分にすり合わせをする時間が取れず、まとまりという点でかけるものも見られたが、班担当教員のアドバイス、修正を経て、全ての班が2年間の集大成として論文を完成することができた。



### 3 グローバル経済

(1) 単位及び授業時間 1 単位

(2) 対象 1 学年生徒

(3) 目的

グローバル化を理解する前提となる知識を習得するとともに、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し、グローバル社会に生きる人間としての在り方・生き方について自覚を深める。

(4) 授業内容

世界史の「世界の一体化」・「グローバル化」を学習するのと並行して、グループ学習等でグローバル化に伴う諸課題について探究し、主体的な問題意識の涵養を行う。また、適宜、関連分野専門家の講義を実施する。

#### ① 4月～9月 教科担任による講義・演習

- ・目的：グローバル化に伴う諸課題を発見するための前提となる、「我々の社会がどのように成立してきたか」を学び、基本的な知識を習得する。
- ・内容：世界史の講義に合わせ、適宜、現在のグローバル化に伴う諸課題とリンクするテーマについてグループで議論し、自分の意見をまとめた。たとえば、「スペイン人の征服者は、先住民のインディオを虐殺し、過酷な支配を行ったが、なぜスペイン人はそのような対応をしたのか。翻って、私たちは異なる文明圏の人と共存を図っていこうとするときにどのような対応をすべきか」、「なぜ人々はヒトラーの手法に賛同し、合法路線でナチ党の党勢を拡大していくことに成功したのか」といったテーマを扱った。
- ・成果：歴史のなかで繰り返し問われている問題は、現在でも解決に至っていない普遍的な問題であることが理解できた。また、課題の発見や他者との議論をするためには、ある程度の前提知識を共有していることが必要だということが体感でき、今後の探究活動をすすめるうえでの二次情報の重要性を理解する手助けとなった。

#### ② 7月27日(月) 「アジアから見た世界の一体化と日本の鎖国」 大阪大学文学部教授・ 桃木至朗氏による講演

- ・目的：世界史で学ぶ近代の「世界の一体化」について、アジアの側から見た時にどのような歴史像が描けるかについて考察し、世界の分析方法が多様であることを学ぶ。
- ・内容：東南アジア史・海域アジア史が専門の桃木先生は、コロンブスとバスコ・ダ・ガマの大航海以前からユーラシア大陸の世界貿易が活発であったことを説明し、その世界史像のなかに近世の日本列島を位置づけた。その結果として鎖国や明治維新を新たな世界史像から再検討した。
- ・成果：歴史を学ぶということが主体的な営みであるということの一端が理解できた。また近世以降の日本列島を含むアジアの経済力を学んだことは、NAGANOの観光について学ぶときに大いに参考になる基礎的な学びとなった。



・生徒の感想より

☆教科書の見方に加えて 自分なりの視点や他の視点から同じ物事を見るだけでもかなり違う。ひとつの概念にとらわれるより、あえて「そんなことあるわけない」というような説も見てみることで、自分の世界を広げることができるのではないかと感じた。

☆日本は鎖国をしていなかったらヨーロッパと同じような発展をしていたのか? という疑問に対し、文化・生活などが違うから完全には同じにはならないということに共感した。そして「ヨーロッパのように」と言われると、世界の中で上下の地位があるように感じ、ヨーロッパは発展しているから自分たちより上などという地位の位置づけはされていってほしくないと思う。

☆自分は今まで鎖国は悪いことだとしか思っていなかったが、生糸の生産が発達したこと、文化が広がり国民意識ができたことなど、日本にとって良いこともあったのだと知った。今までの歴史で学んだことから、自分なりに考え、判断していくことが大切だとわかった。

③ 9月～1月 教科担任による講義・演習

・目的：資本主義型システムの世界化という形で進行するグローバル化の功罪について、基本的な知識を修得するとともに思考・判断する。

・内容：戦後体制が確立していく中で、経済的自由主義が拡大し、社会主義的計画経済が勢力を失った経緯とその原因について講義と演習で学習した。さらに、戦後体制の確立の上に、現在、世界の国々はどのような政治・経済体制をとっているのかについて講義と演習で学習した。例えば、資本主義型システムの問題点について、世界史の講義と合わせ、適宜グループで議論し、自分の意見をまとめた。

一例として、「産業革命によってイギリスでは国全体の富は増大したが、労働者階級の生活は過酷であった。こうした状況を改善するためにどのようなことができるか」というテーマを扱った。また、経済的な統合だけでなく、政治的・文化的な統合がすすんでいることによって各地で摩擦が起きていることについて、EU を例に学び、日本でも今後グローバル化が進むことで起こりうる摩擦について理解することができた。

・成果：地域の課題を検討する際に避けられない、市場経済の矛盾について理解することができた。

④ 1月8日(金) 「分断国家・韓国から考えるグローバル経済～ポスト米ソ冷戦時代の国民国家」 信州大学経済学部教授・金 早雪氏による講演

・目的：グローバル化の功罪を韓国の例に学び、日本社会と比較して考える。

・内容：経済発展は単線的なものではなく、いくつかのパターンがあり、また、その国の政治、社会に根ざした課題があることを、主に1960年以降の韓国を例に学んだ。

・成果：かつては、「どの国も同じ歴史のレールを進んでいて遅いか早いかという違いがあるだけ」、つまり今は後進国であっても将来的には先



進国に至るといふ経済発展の法則性があると考えられていた。しかし、現在では先進国となるためには「南」を収奪しなければならないので、どの国もいずれは先進国となるという法則はありえないという考え方も出てきている、という経済発展論の一端が理解できた。ある地域の発展のために別の地域が収奪される、というモデルは、今後都市と地方の格差を学んでいく際の基礎的な知識となった。

・生徒の感想より

☆「歴史はくりかえす」とよく言われるが、後進国も鉄の法則で先進国になれるわけではない…という経済発展論の話が興味深かった。  
☆経済学はもっと数理的処理がメインと思っていたけれど、歴史の話だったので、自分の知っている知識とリンクしていてよかった。  
☆金先生が中国の今後の発展を強調していたが、自分は中国が民主化しないままに覇権を握るとは考えられないので、金先生と議論してみたかった。

⑤ 3月7日（月）『『螢の光』で考えるグローバルとナショナル～世界と日本の近代～』

早稲田大学教授・大日方純夫氏による講演

・目的：「グローバル」（世界）と「ナショナル」（日本）の関わりについて、江戸時代末の開国から太平洋戦争終結までの期間において考える。1年間の授業のまとめと、次年度の授業や課題研究を「グローバルな視点」や「歴史的な視点」で捉えていくことの重要性を学ぶ。

・内容：幕末における開国の意味や、日本における近代「国民国家」成立の要件について、唱歌「螢の光」を題材にして考える。「螢の光」の誕生、「螢の光」の3番・4番の歌詞の成立の背景から、当時の国際関係（特にアジアの）を説明し、また日本の領土拡大の過程も歌詞の説明にあわせてしていただいた。最後に「螢の光」と東アジアとして、東アジア各国に同じメロディーながら歌詞の内容が全く異なるものがあるということを、実際の曲を聞きながら説明していただいた。



・成果：音楽をとおしての説明であったため、興味を持ちながら説明を聞く事ができた。次年度の課題研究にはグローバルな視点からの研究が求められるが、そこへ向けた良いきっかけとなった、また次年度の授業において日本史や世界史を選択する生徒にとっては、その導入ともなった講演であった。

・生徒の感想より

☆物事の受け取り方はそれぞれの国によって違うので、同じ現象に対して違う視点（切り口）から入ってみるといふことが今のグローバル化の世界で必要だといふことが、この講演会で最も伝えたかったこととしてあげられるのではないかと思います。  
☆一見、あまりグローバル化に関係があるとは思えない歌でも、詳しく知っていくと実は大きな関係があることが印象に残りました。今、自分の周りにも同じようなことがあると思うので、2年の学習ではもっと身近なものにも注目

してみたいです。  
☆今回の講演会では、私が身近に知っているものでも、それを深く調べていけばグローバルなつながりが見えてくるのではないのかなと思いました。

## 4 英語プロジェクト I

(1) 単位及び授業時間 1 単位

(2) 対象 1 学年生徒

(3) 目的

英語による課題研究を通し、グローバルな教養を身につけるとともに、最先端デジタルメディアを活用し、英語を用いた発表の基礎を学ぶ。

(4) 授業内容

### ① 4・5月 自己紹介及びレシテーションへ取り組む時期

- ・この時期は9月のプレゼンテーションへ向けての第一タームとも言うべき時期。
- ・4月中旬とはいえ緊張感がまだ漂うこの時期に、「自己紹介を兼ねて有名なスピーチの主人公になってみよう！」と銘打って、レシテーションを導入教材として活用した。クラスメイトの前で、有名な英語のスピーチを、ジェスチャーを付けて大きな声で恥ずかしがらずに出来ることは、オリジナルのプレゼンテーションをする上でも大きな自信に繋がった。
- ・最初の授業で、最終到達目標とも言うべき TED(Technology Entertainment Design)のプレゼンテーションを見せた。TEDの中でも英語が比較的聞きやすく問題解決プロジェクトをテーマにしたプレゼンテーションを選択。姿勢、態度、声量、アイコンタクト、間合いの取り方など全てに参考になる手本として提示した。具体的には、Alessandra Orofino(アレサンドラ・オロフィーノ)「It's our city. Let's fix it. (自分達の街の問題は自分達で直しましょう)Nov 2014」。
- ・レシテーション用の原稿は4種類。うち1から3はスピーチ。4は物語。1. 「I have a Dream」 by Martin Luther King Jr. 2. 「Speech at United Nations」 by Malala Yousafzai 3. 「Commencement address at the graduate ceremony of Stanford University」 by Steve Jobs 4. 「Little Red Riding Hood and the Wolf」 by Roald Dahl
- ・原稿例 Speech at United Nations by Malala Yousafzai

Dear fellows, today I am focusing on women's rights and girls' education because they are suffering the most. There was a time when women social activists asked men to stand up for their rights. But, this time, we will do it by ourselves. I am not telling men to step away from speaking for women's rights rather I am focusing on women to be independent to fight for themselves. (中略) Dear brothers and sisters, we must not forget that millions of people are suffering from poverty, injustice and ignorance. We must not forget that millions of children are out of schools. We must not forget that our sisters and brothers are waiting for a bright peaceful future. So let us wage a global struggle against illiteracy, poverty and terrorism and let us pick up our books and pens. They are our most powerful weapons. One child, one teacher, one pen and one book can change the world. Education is the only solution. Education First. (439 words)

- ・400語から600語の英文を全て暗唱して臨んだ生徒もいれば、片時も原稿から目を離せない生徒もいたが、生徒の感想では、「クラスメイトの発表に刺激を受けて、自分も暗唱して頑張れ

てよかった」「アイコンタクトをして話そうと思ってもなかなか難しかった」「難しい表現もあったが語彙力が増えてよかった」「人前だとどうしても緊張して、家での練習のように上手くいかなかった」など多岐に亘るものが出たが、人前で話すことの難しさと同時に楽しさも実感できた生徒が多く見受けられて、最初のステップとしては有効な取り組みであった。

## ② 6・7・8月 My Favorite Presentation へ向けての準備

- ・レシテーションの試みを受けて本格的にプレゼンテーションの準備に取りかかる第二タームの時期。
- ・9月5日(土)に My “Favorite” Presentation in English を行なう。14 教室に約 20 名ずつ分かれて発表。一人 5 分以上、10 分以内。他大学の先生や学生が多数来校し、評価してくれる。内容は、(1) Self-introduction in English (2) My “Favorite” Presentation in English (Show and Tell 形式) (3) 自分の好きなこと、好きなもの、興味関心のあるもの、アイドルでも、班活でも、お料理でも、趣味でも、楽器を演奏したり、パフォーマンス披露でもよい。
- ・動画を見せる場合は、オリジナル動画に限定するなどの注意事項も徹底し、著作権保護のための指導も行なった。
- ・発表用の原稿は作ってもよいが、なるべく見ないようにして、eye-contact や body-language にも心懸けて、「相手に伝える」「相手に伝わる」presentation にすることを最大の目標にした。
- ・最終的には、自分の好きなことや興味関心のあることを深めたり極めたりして、その先の SGH のテーマ研究(長野の魅力)に自然と繋げていくのがねらいで、まずは、興味関心のあることをみんなに伝えることを試みた。
- ・テーマが決まったら、詳しくリサーチを重ねて内容を厚くする。その後、4 人グループを作り small presentation。引き続き Q&A などで、仲間からインスピレーションをもらった。

## ③ 9月5日(土) 発表会 My “Favorite” Presentation in English

- ・1 学年全員が、14 教室各 20 名程度に分かれ、自分が興味を持つ事柄を伝えるプレゼンテーションを行い、コメンテーターから評価を受けた。客観的な自己評価と多角的な思考力、より高次の表現へのヒントを学んだ。
- ・日程

集合	8 : 3 0
SHR	8 : 3 0 ~ 8 : 4 0 (出席確認)
移動・準備	8 : 4 0 ~ 9 : 0 0
コメンテーター紹介	9 : 0 0 ~ 9 : 0 5 (進行役生徒が英語で)
プレゼンテーション	9 : 1 0 ~ 1 1 : 3 0

(進行役の生徒 2 名が司会進行する。基本英語で。途中 10 名終了時点で休憩 10 分から 15 分(進行状況で判断) : コメントは個人別コメントシート(オリジナル)に記入して戴き、口頭では最後にまとめて願います。)

コメンテーター反省会 1 1 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0 (大会議室)
- ・コメンテーター  
信州大学より (18 名)
  - 教育学部教授 高橋 渉氏
  - 人文学部教授 杉野健太郎氏
  - 工学部教授 劉 小晰(リユウ ショウシ)氏
  - 工学部准教授 Pauline N. Kawamoto (カワモト, ポーリン・ナオミ) 氏



工学部教授 David Asano (アサノ デービッド) 氏  
 工学部教授 Mizue Kayama (香山瑞江) 氏  
 工学部准教授 Kawahara Takuya (川原琢也) 氏  
 工学部非常勤教授 Stephen Corrigan 氏  
 工学部グローバルテック Keiko Matsuzawa (松澤恵子) 氏  
 エンジニア(株)電算 Pratima K. Shah (プラティマ クマーリ シャー) 氏  
 SE(株)電算 Meigetsu Araki (荒木明月) 氏  
 株式会社 エーシーエ設計 May Hsu Shin 氏  
 工学部 1st year PhD student Hajer Mejri (メジュリ ハジエル) 氏  
 工学部機械システム工学科 2nd year student Hideharu Kusunoki 氏  
 工学部環境機能工学科 2nd year student Marii Kobayashi 氏  
 工学部情報工学科 3rd year student Juri Togashi 氏  
 工学部 建築学科 4th year student Youta Ueda(上田陽太) 氏  
 工学部 情報工学科 4th year student Tominaga Eishi(富永英志) 氏  
 長野県短期大学より (6名)  
 多文化コミュニケーション学科教授 高梨良夫氏  
 多文化コミュニケーション学科准教授 若林 敦氏  
 多文化コミュニケーション学科准教授 坂 淳一氏  
 多文化コミュニケーション学科助教 カチョフ・シェロ氏  
 多文化コミュニケーション学科助教 中島基樹氏  
 多文化コミュニケーション学科学生 松本美希氏 (2年生)

[発表テーマ(抜粋)]

Australia / Baseball / Yomiuri Giants / Kanji /  
 Cicadas / Sweets / Dance / Brass Band /  
 Swimming / Chocolate / Hello Kitty / Guitar /  
 Percussion / Japanese Archery / World  
 Interesting Law / About Lithuania / Karuta /  
 Power of Music / Trip / About My Hobby / Jewels /  
 Volleyball / Matsumoto Yamaga など。



コメンテーターの先生方

・生徒の感想より

- ☆原稿を使わないで発表できたのは自信が付いてよかったが、アイコンタクトやジェスチャーがおろそかになってしまった。多くの課題が残ったが、練習で改善していけるものであると思う。
- ☆まず感想としては楽しかった。意外と英語で話せて聞き取れるんだなと自分の可能性を感じた。
- ☆他の人のプレゼンを見て、実際にその場で演じたり、スライドには重要な部分だけを書いて伝えると有効だということもわかりました。
- ☆コメンテーターの先生から、笑顔をもっと見せて、更に発音をよくすると、より

よく伝わると指摘してもらった。

☆夏休みのオーストラリアホームステイでの体験をテーマにしたので作っていてとても楽しかった。

☆実際になってみて上手いかないこともあったけど、思っていたよりも楽しかったし、面白かった。

☆機会が持てて、英語に対して自信を持てた。

☆原稿を読むのに必死でアイコンタクトなど出来なかったが、相手に伝わる発表に心懸けたい。

☆レシテーションでの演技がプレゼンテーションに大いに役立つとわかった。



#### ⑤ 9月～1月 アカデミック・ディベート テーマ「修学旅行は国内よりも海外の方がよい」

・課題研究Ⅰディベート基礎①②(5月)で学んだテーマと方法を授業として継続、深化させ、確実に自分達のものにする。論拠の調査に最先端デジタルメディアを活用。11月末からは試合形式に入った。(来年度末では学年でディベートクラスマッチを開催する予定。)

・肯定側アーギュメント：外国語に触れる機会が増える，世界遺産に触れられる，現場に行かなければわからないことが学べる，本場の食を経験できる，文化の違いが直接体験できる，など。

・否定側アーギュメント：日本に比べて外国の方が犯罪率が高く危険である，旅行代金が割高である，水や食の安全が確保しきれない，など。

・高校生英語ディベート連盟(HEnDA)のフォーマットよりも，それぞれのスピーチの時間を短縮して，まず形式に慣れることに重点を置いて取り組んだ。4人1チームで，立論，アタック，ディフェンス，サマリーの役割を担当し，それぞれが独立して機能する重要性和，その上でのチームワークの大切さを学んだ。また，アーギュメントを支える理由とデータの重要性にも気付くことができ，特にデータは，立論，ディフェンスとサマリーで3つ出せると議論を厚く展開できることを学んだ。同じひとつの事象でも，肯定と否定の両面から考えることで，多面的で総合的な理解に基づいて判断を下す道筋を習得できた。



・生徒の感想より

- ☆大きくはっきりとした声で伝えることが重要だと思ったし、原稿から目を離してアイコンタクトも説得力を持たせるには重要だと感じた。
- ☆サマリーでは、自分たちの主張に矛盾がないように AD と DA を比較しなければならぬところが難しかったが、それぞれの役割も大切だと思った。
- ☆エビデンスをどこからもってくるかでその有効性が変わるので、私的なものよりも公的な機関から選ぶことが大切だと思った。
- ☆肯定と否定だけでなく、ジャッジも経験してみて、まず聞き取るのが難しいと思った。常に集中していなければならないので、聞き取りやすく簡単な英語で話す事に心懸けるようになった。
- ☆まじめな議論だけでなく、笑いやユーモアの要素も入れると印象に残った。
- ☆日本語でやるのとはまた違う難しさや面白さがあるなと思いました。
- ☆最初の頃に比べて、ディベートを重ねていくうちに英語の表現が苦ではなくなってきた、文法にとらわれず、間違ってもいいから話そうという気持ちでやるとスラスラと英語が書けるようになった。一回ぐらいいは勝ちたいと思えるようになった。
- ☆今回たった一つのテーマに対して調べたのに、驚くほどのたくさんの情報があって、その分きちんと信用できる情報を選ばなくてはならないと思いました。
- ☆一番思うことは、ディベートは難しいけど、できると楽しいということです。日頃の授業がディベートに繋がっていると思いました。
- ☆英語プロジェクト I のディベートでは、どんどん自分で考え、その考えを英語に変換していくという学習ができ、前よりも英語を聞いたり話したり、自分の意見を持つことの重要さがわかりました。
- ☆今回本当にすごいと思ったのは、みんなが一試合ごとにメキメキ成長したことだ。最初の無言状態から時間が足りなくて言い足りないという場面が出てきたし、最後には笑いがあったと思う。Make friends. になったし、楽しかった。

(5) 成果と課題

レシテーション、プレゼンテーション、ディベートと取り組んできて、その三者には相手に確かに伝えるための共通事項があることを生徒達は実感しており、「英語プロジェクト I」は SGH の特別設定科目としての役割を確実に果たしていることが検証できた。この一年間の言語活動を通じて、相互理解を行なう上でのノウハウを身に付けることができたので、来年度へ向けては、その発展的な継続が大きな課題となる。実際に、台湾への研修旅行で問題解決型のプレゼンテーションを行ない交流する予定であるので、身の回りの現実に即した観点から提案して発信をできるように指導していく。

## 5 英語プロジェクトⅡ

(1) 単位及び授業時間 1 単位

(2) 対象 2 学年生徒

(3) 教科の目標

- ① 英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
- ② 英語を通じて、国際問題や多様な価値観を理解した上で、適切に自分の考えを伝える能力を身につける。
- ③ グループで協力して、お互いの考えを深め、能力を高め合う関係を築きあげる。
- ④ ICT を活用して、台湾の交流校との関係を取り、グローバル社会において“協働”の能力を身につける。

(4) 授業内容

### ① 4, 5 月 コミュニケーション・トレーニング 「KANO プレゼンテーション」

- ・ 内容：クラス替え直後のため、改めて生徒は自己紹介を行い、昨年度制作したプレゼンテーションを行うなど、コミュニケーションを行いやすい活動を行った。一方で、生徒の希望を取り入れながら、グループを確定。授業での活動単位にした。ブレーストーミングの方法論を提示して、グループでの意志決定の練習を行った。



・ 生徒の作成文より

KANO プレゼンテーション

### 3 Impressive Scenes in the movie, KANO

#### Scene 1 Exhibition Match

It was stopped because of the heavy rain.

#### Scene 2 Press Interview

The manager got angry to listen to a reporter's words. We thought that it was no good defining people's ability by race.

#### Scene 3 The manager's taking care of his students

In the movie, the manager had been very strict. However, in this scene, we could feel his warm heart for his students.

### ② 6, 7 月 英語サイトでのリサーチ

- ・ 内容：ALT に台湾と日本の比較や海外と日本の比較についての課題を出してもらい、インターネットで調べたことを発表。食べ物や歴史・文化など 10 個のトピックをペアワークで行った。リサーチは、英語のサイトを推奨し、ほとんどの生徒が Yahoo USA

や Wikipedia を使用して、要約するということにチャレンジしていた。

### ③ 7～9月 アカデミックプレゼンテーション (AFPプレゼンテーション)

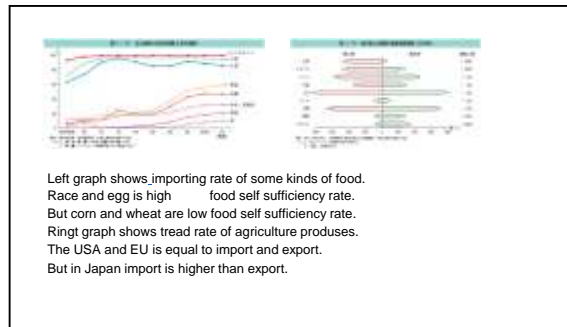
- ・内容：グローバルな問題をあげ、Debate 的な分析を経て問題提起を行うという型のプレゼンテーション。高齢化社会、交通渋滞、輸入食品、言論の自由、教育問題等 16 の問題を取り上げた。
- ・生徒の作品より

作品例 Food in Global Age より抜粋

#### ①現状分析



#### ②現状分析



#### ③自分たちで決めた命題

**Proposition**  
We should buy food produced in Japan, or not (imported food).

#### ④肯定的な意見

**Analysis Affamative Side①**  
Eat japanese food is . .  
•Good for our environment  
we exhaust many CO2 if we eat food from overseas.  
This picture is about "food mairage"  
Japan is top of six countries.  
Especially wheat makes japanese food mairage higher.

#### ⑤否定的な意見

**Analysis Negative Side**  
• cheaper  
• mass produce  
• many kinds of thing  
• some countries have harder check than that of Japan

#### ⑥結論

**Conclusion**  
Food produced in japan is more environmentally friendly and safety than imported food.  
Imported food is cheaper and more various than domestics.

- ・生徒の感想より

☆発表では、主張や根拠をグループ内で話し合い、各自の分担をしっかりとこなすことができた。  
☆パソコンの使い方を教え合えた。  
☆グループ内でそれぞれのスライドを見てわかりにくい点や文法の間違いなどを指摘するべきだった。





#### ④10～11月 台湾での交流準備、発表用プレゼンテーション作成

- ・内容：作成済みの4種類のプレゼンテーションについて、台湾の交流パートナーからコメントをもらい、リアクションも見ながら、一番「発表してみたい」と思うものを選ばせた。さらに、グループ単位での発表のため、運営リハーサルも行った。会場に生徒を割り振り、映像を出したり、ファシリテーションの打ち合わせをグループリーダー中心にさせるなどした。「時間が足りない」「準備が十分にできなかった。」の声が多かった。



#### ⑤12月1日 台湾での課題研究発表と質疑応答 ←6 台湾研修 参照

- ・「II-2 台湾研修旅行」を参照

#### ⑥12～2月 社会問題を扱ったプレゼンテーションとディスカッション

- ・内容：「アフリカにおけるモノの適正価格」、 「ヒーロー論」をテーマにして、ディスカッションの後に、英語で意見をまとめさせた。
- ・生徒の作品より

Who is your hero, and why?

作品例①

My hero is Black Jack. He is a great surgeon and do a lot of difficult surgery. He has great skills, like Dr.Amano. But he is a human, so he sometimes makes mistakes, and kill patients. But after these failures, his mind becomes stronger, and helps patients. He studied from his failure, so I think failure is necessary for him.

作品例②

My hero is my mother. She always smiles and embraces me, even if I did bad things. She has a wide mind. So, I respect her. I think it is necessary for heroes to win everyone's trust. That's because everyone's trust gives us confidence to play what we want to do boldly. And it also gives us warm spirits. My mother is trusted by many people, such as my family and her friends. So she is very kind. And I respect her well.